

平成9年4月30日現在

城東 JOTO

世帯数 32戸
人口 160人

私たちのきぬがさ城東区！

きぬがさ城東区は、琵琶湖小中の湖が干拓され入植以来50年の年月が経過し、記念すべき節目の年を昨年（平成8年 1996）迎えました。

入植以来、湿田での重労働、排水工事、客土、台風による風水害、過労による病気等々苦勞の連続であったことを聞かされています。しかしながら、これらの苦勞にも負けることなく、全員が力を結集し、今日の立派な誇り得る城東区をつくりあげることができたのです。

私たちは、50年の歴史をしっかりと振り返るべく、この度50周年記念事業を実施し、区民が一堂に会し、老いも若きも一致団結し、屋台や舞台を造り懐かしい昔話、苦勞や楽しかった思い出話に花を咲かせ、1日を満喫したのでした。

以後、よりいっそうの連帯を深めつつ、きぬがさ城東区発展のため、さらに努力をしていく決意です。

町には程遠く、店一件もない山沿いの在所ですが、静かで人情深いすばらしい我が城東区。そんな素朴な城東区が好きです！



安土城に向かって延びる「からめ手道」



城東集落の遠景

平成9年4月30日現在

中洲 NAKASU

世帯数 38戸
人口 156人

中洲のルーツ

昔、地理の時間に習った琵琶湖の形はいまのようにすんなりしてなく、東側に大きなこぶのように入江があったことを思い出します。戦争中、食糧増産のためその入江の奥の伊庭内湖、弁天内湖が干拓されました。その一画に弥生時代、人が住んでいたといわれる中洲があり、葭が一面に茂っていました。昭和21(1946)年、その葭原の中に小屋を建て人が住み始めました。それが中洲のルーツなのです。

泥沼と闘いながら田を作り、葭原を切り拓いての村づくり、それはそれは大変な苦勞の連続でした。そして50年の歳月が流れました。

開村50周年記念式典

平成8年(1996)10月27日、中洲は開村50周年記念式典を挙行了しました。早くから委員会を開いて準備を進めてきましたが、はかどりませんでした。記念日

が近づいてくるにしたがって「やろう」「成功させよう」との機運が高まり、子どもから年寄りまで一丸となって取り組みました。藁を編んだ門ができました。丸太を組み足場板を並べた舞台ができました。工事用の足場の櫓ができました。当日は素晴らしい秋晴れのもと、沢山のお客さんに来ていただきました。舞台では女性の大正琴の演奏、子どもを交えた素人劇団が開村以来の出来事を演じたのが圧巻でした。料理はすべて女性の手作りでした。このすべてが手作りの記念式典は大盛況裡に終わりました。皆さんに嬉んでいただきましたが、一番の収穫は、団結して事に当たれば必ず成功するという教訓を得たことでした。この教訓は今後の中洲の村づくりに活かされ、開村100周年に向かって、皆様のご支援に支えられつつ、住みよく明るい村づくりに努力を重ねていきたいと思っています。

開村50周年記念式典(平成8年10月27日)



平成9年4月30日現在

大中 DAINAKA

世帯数 72戸
人口 384人

大中は、昭和41年（1966）に国営干拓事業により、新しい農村地として生まれました。

大型機械と近代的な施設を中心とした専業農家として発展してきました。昭和45年に減反政策が開始され、水稲を基幹品目とし、野菜・畜産・花卉を導入した複合経営がはじまりました。

花卉

ストレリチアは関西一の産地で年間80万本を出荷しています。他にスターチス、ひまわりと品種拡大をめざしています。

野菜

キャベツを中心とする秋冬野菜の露地栽培、キュウリ・トマトなどの施設栽培があり、キャベツは国の指定野菜産地の指定を受けています。

畜産

大中牛の本場で、大中牛は安全でおいしい肉として

名声を高めています。

町の事業

とくに、ふれあい綱引大会、ドラゴンカヌー大会に優勝しています。ドラゴンカヌー大会はただいま5連勝中！

大中の事業

大中の事業としては、春・秋祭り、区民スポーツ大会、地蔵盆、営農活動、農村下水道（完了）、環境整備への取組みなどがあります。

大中は、専業農家がほとんどであるため、集落営農としての活動が活発になされています。農業も厳しい状況ですが、経営の改善・合理化・コストダウン・栽培技術の向上等を進めながら、意欲ある経営体、個々の特色を活かせる農業をめざしがんばっています。能登川町のみなさん、未来の農業に応援をよろしく願います。

